

カンボジア地域研究のための基本文献

<入門・概説書>

- 上田広美、岡田知子編 『[カンボジアを知るための62章](#)』明石書店 2012年

本書は、「アンコール遺跡」「貧困」「戦争」といった、固定したイメージで語られることの多かったカンボジアについて、近年目覚ましく経済発展し、変化する現在の様子も含め、概説しています。

<専論・研究書：歴史、文化、政治経済、社会>

- 坂本恭章 訳 『[カンボジア 王の年代記](#)』明石書店 2006年

本書は、18世紀以降王の命により編纂されてきた年代記の邦訳で、建国神話に始まり、アンコール王朝がシャムとベトナムの間で翻弄される歴史が綴られています。詳細な訳注、人名辞典、事項辞典、系図が付加されています。

- J. デルヴェール 『[カンボジアの農民—自然・社会・文化](#)』風響社 2002年

カンボジアの伝統的村落の様子を詳細に記述しています。料理や、動植物、生活器具の名前などを百科事典的に調べることもできます。

- 天川直子 編 『[カンボジア新時代](#)』日本貿易振興機構アジア経済研究所 2004年

カンボジアの変化の最先端である、縫製企業、高校生、為政者の問題意識、絹織物業と母子保健、農村の社会経済変容の分野に焦点をあて、各執筆者による現地調査に基づいて論じた論文集です。

- 天川直子 編 『[カンボジアの復興・開発](#)』日本貿易振興会アジア経済研究所 2001年

日本におけるカンボジア研究を概観し、カンボジアの行政制度、憲法体制、土地所有、および家族・親族の4分野について、社会経済制度と経済復興を描く論文集です。

- ベネディクト・アンダーソン 『[定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行](#)』
書籍工房早山 2007年

本書はナショナリズム研究を知るために読んでおくべき基本文献です。カンボジアの事例も多くでできます。

- ヴァールミーキ (著), 中村了昭 (翻訳) 『[新訳 ラーマーヤナ](#)』平凡社東洋文庫
2012年

古代インド二大叙事詩として、インドをはじめ東南アジア世界の文化・芸術・思想に深い影響を与えたインド古典文学の全訳（新訳）です。アンコールワットの彫刻や古典舞踊、影絵芝居などにも、カンボジア版ラーマーヤナ（リアムケー）の場面が描かれています。

(2013年7月 上田広美)